



発行 宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm

イベント報告 -ウッドランドクラブ8月-

～「川遊びと夏休みの工作を楽しもう」～

8月のウッドランドクラブは、7月に続き川遊びを楽しみました。捕まえたイワナは、花山漁協さんより格別のご配慮により提供を受けています。一匹も逃さず捕まえ、子供たちはイワナをさばき、串焼きにして食べました。初めての体験ですが、皆さん上手くできたようです。夏休みも半ばを過ぎて工作づくりにも熱が入ったようです。



＜さばき方体験！＞

また来年の夏も参加されることを願っております。

科学館案内④「こもれびの森の小鳥コーナー」

～移ろいゆく四季の主役たち～

施設の敷地内と「こもれびの森」で撮影した野鳥たちの展示コーナーです。撮影したのは、サポーターの大友信次氏です。何年もかかって数十種類の野鳥を確認し、ここに記録に残しました。

こもれびの森の豊かな自然を物語る展示です。平地では見かけることのない野鳥を見ることが出来ます。鮮やかな色彩の野鳥など、是非ご覧ください。



＜小鳥のコーナー＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)の
大友さんのコーナーです

初秋のひと時・・・

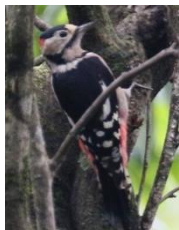
- ①②夏鳥のサメビタキの親子が忙しくエサ探しです。まもなく旅立ちです。
- ③後頭部の赤いアカゲラの雄です。キッキと繰り返して鳴きながら木をつついて虫探しです。
- ④胸元が黒く、まだ羽が少し短いカワセミの幼鳥です。6月に紹介したカワセミの子供だと思えます。(大友)



＜①サメビタキ幼鳥＞



＜②サメビタキ親鳥＞



＜③アカゲラ・オス＞



＜④カワセミ幼鳥＞

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

正体はいかに？

館内の中庭にある栗の木の葉裏から紡錘形の二つの卵のうがぶら下がっていた。よく見ると近くに足を縮めている姿のクモがいた。盛り上がった両肩は白と灰色のまだら模様。オオトリノフンダマシだ。名前の由来は、模様が鳥のフンのように見えることから「鳥の糞騙し」。

この模様は、鳥の糞を好んで食べる虫がいないことからきた擬態と腹部にはカマキリの頭部と複眼、触覚、顎に似た模様があることから怖いカマキリの顔の擬態という説がある。

いずれにせよ、虫たちは防御のために何かに擬態する術を持つというが、鳥の糞の擬態には恐れ入った。(は)



＜①二つの卵のうと親グモ(中央)＞



＜②成虫 カマキリの頭?＞

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

ただものではない姿!! ～ツチアケビ(ラン科)～

秋の自然観察会で森の中を散策していると、奇妙な姿の植物を目にします。「ウイナーソーセージだ!!」と子供たちは叫びます。「ツチアケビ」はラン科の日本固有種で、腐生植物と呼ばれます。葉がなく茎だけ伸びて初夏にクリーム色の小花が咲きます。果実は確かにウイナーソーセージそのものです。葉がないため光合成はおこなえず、根にある菌類に頼って栄養を得ています。このような根を菌根といいますが、菌根とは菌類が根に侵入して独特の仕組みと働きをする共生体のことです。ツチアケビの場合は、「ナラタケ」に依存しています。腐生植物のこのような仕組みから、最近では、「菌従属栄養植物」と呼ぶようになってきました。同じような植物に「ギンリョウソウ」がありますが、こちら葉がなく葉緑体がないため全体が透き通るように真っ白な姿です。さて、ツチアケビの果実ですが独特の色形をしていることから、かつては民間薬として摂取されたこともあるようです。しかし確固たる薬効はなく、また味もウイナーソーセージにはほど遠く、まずくて食用にはならないのでご注意ください・・・。(千葉)



＜ツチアケビ・実＞

パッチワーク展開催中

＜パッチワーク展＞

科学館情報

科学館では「パッチワークに挑戦」(10/14(日))のイベントに合わせて、パッチワーク展を開催しています。作品はイベントの講師でもある佐藤タキ子先生の制作によるものです。壁一面を覆うような大きなものからバックやポーチもあります。展示販売をしていますので、ご来館の上お求めくださるようお願いいたします。

